

教育施設などから発生する音に関する研究

その3 長野県と大都市の保育・幼稚園等のアンケート調査

長野工業高等専門学校 学生会員 ○中島 海

長野工業高等専門学校 正 会 員 西川嘉雄

1. はじめに

近年では教育施設から発せられる子供の声や保育・幼稚園内外における活動音が騒音と捉えられることが多くなっている。音に対する苦情により教育活動や施設建設が制限されてしまう。教育活動や建設反対などのトラブルを未然に防ぐために騒音のリスク評価を行う。そのために教育施設・市民・行政へのアンケートを用い、情報収集する。

本研究室では長野県（3 都市）と大都市（3 都市）の小中学校¹⁾と保育・幼稚園²⁾を対象にアンケートを行ってきた。本研究では保育・幼稚園の現状、周辺環境の状況を把握することが目的である。

2. アンケート調査の概要

音環境に関するアンケート項目を表1に示す。大問5

表1 音環境に関するアンケート項目

I	園について	6項目
II	園生活について	4項目
III	園の音環境について	3項目
IV	音環境に対する意識について	6項目
V	地域交流について	2項目
その他	自由記述	
	記述者について	

表2 アンケート回収率

	配布数	回収数	回収率
長野市	104	82	79%
松本市	68	44	65%
上田市	55	32	58%
名古屋市	362	99	27%
横浜市	491	159	32%
大阪市	317	86	27%

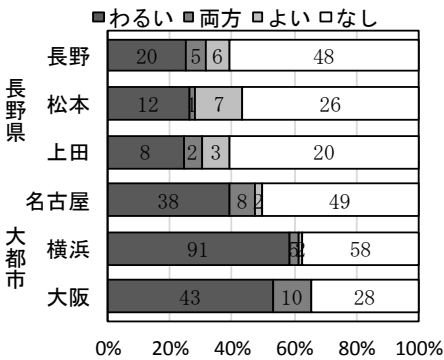


図1 音に対する意見の有無

項目に付随する小問 22 項目、及び自由記述と記述者についての全 28 項目である³⁾。対象都市は長野市・松本市・上田市・名古屋市・横浜市・大阪市である。

アンケートの配布数と回答数・回収率を表2に示す。長野県内では回収率が 50%を超えたが、大都市では 30%程度であった。

3. アンケート調査結果

3-1. 近隣住民からの意見の有無

園から発生した音に対する近隣住民からの意見の有無を図1に示す。意見がある場合は意見の内容からわるい・両方・よいに分類している。意見があった園の割合は、長野市が 39%、松本市が 43%、上田市が 39%である。長野県の都市では 4 割程度の園で意見が寄せられていた。大都市では名古屋市が 49%、横浜市が 63%、大阪市が 65%である。横浜市と大阪市は 6 割程度の園で意見が寄せられていた。長野県の都市と大都市では 2 割近くの差があることがわかる。大都市ではよい意見のみを寄せられた園はごくわずかである。

3-2. 意見を寄せられた活動

意見を寄せられた活動の状況を図2に示す。すべての都市で「運動会本番や練習」「園庭での保育」「その他」が特に多い。長野県内では「その他」と回答した園は少なかったが、「行事」「送迎」の時に意見が寄せられていた。大都市の「その他」の内容は、「行事」「楽器の演奏」「保育中」が多い。

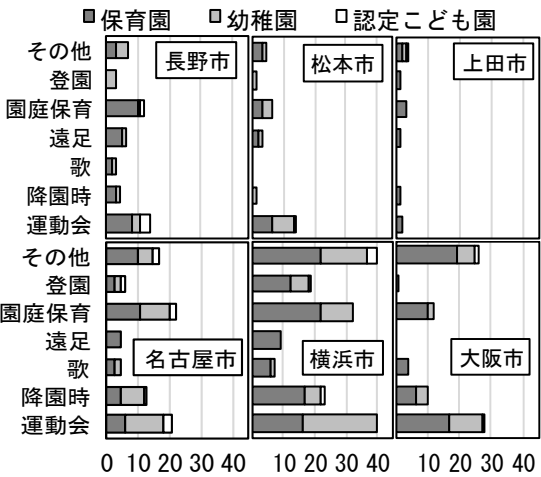


図2 意見を寄せられた活動

3-3. 寄せられた意見の内容

音に対する意見の抜粋を表3に示す。共通の内容は園庭で遊ぶ声や泣き声・運動会等での楽器演奏や音楽・送迎時の保護者の会話に対する意見である。大都市ではダクトの音などの施設設備・保育士の声に対する意見がみられた。好意的な意見は少数であるが「子供の声に元気がもらえる」「声がすると活気があってよい」などの内容である。

3-4. 園から発生する音に対する配慮

「近隣に対して園からの音が騒音とならないように配慮しているか」の回答結果を図3に示す。長野県は長野市と松本市で80%以上の園が配慮しているが、上田市は80%を超えなかった。大都市では3市とも80%を超え、大阪市では約90%の園が配慮している。長野県と大都市を比較すると、大都市の方が配慮している園の割合が高い。配慮の内容を図4に示す。どの都市でも「放送を小さく」「スピーカー調整」「事前通知」は多く行われたが、「時間帯考慮」を行っている園は少ない。

表3 音に関する意見の内容（抜粋）

	具体的な意見内容
共通	園庭での体操の音楽がうるさい。 夕方園庭で大声を出して遊ぶことは騒音だ。 降園時保護者の声がうるさい。 立ち話は長時間にわたってうるさい。 運動会の練習の音がうるさい。 夏祭りの音がうるさい。 キャーキャー騒ぐ声がうるさい。 音がうるさい。 午前中は園の中で静かに活動してほしい
大都市	早朝より調理室のダクトの音がうるさい。 先生の声が大きすぎてうるさい。 太鼓の音がうるさい。
好意的	子供の声に元気がもらえる。 子供の声がすると活気があってよい。

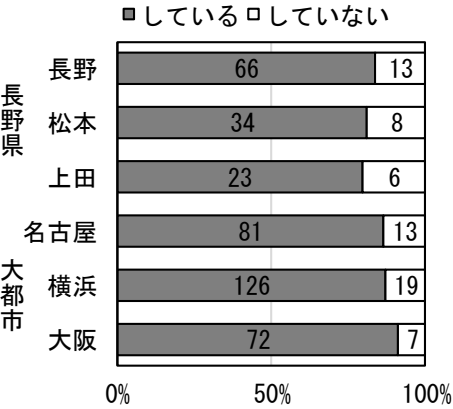


図3 騒音とならないように配慮しているか

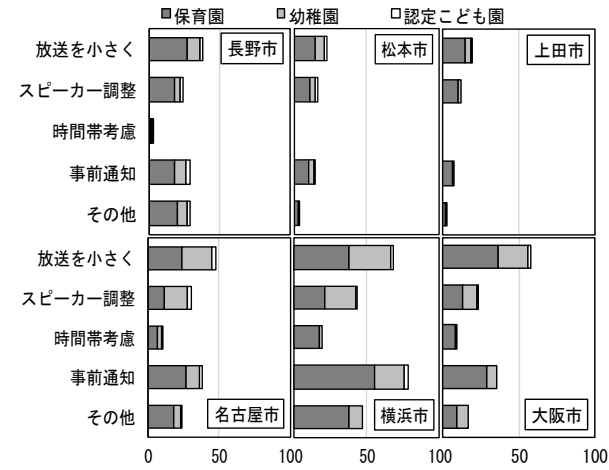


図4 どのような配慮をしているか

4. まとめ

意見が寄せられた園の割合は長野県の都市で40%程度であった。大都市と比較すると、名古屋市が49%で長野県内の都市と近いが、横浜市・大阪市は60%程度で長野県の都市と差があった。よい意見のみを寄せられた園は大都市ではごく少数の割合であった。

意見を寄せられた活動は全体的に園庭での保育や降園時、運動会といった園児が屋外で行動するときに集中していることがわかる。

寄せられた意見の内容は子供の声に対する意見だけでなく、保護者や施設設備に対する意見が多かった。

園から発生する音に対する配慮は、ほとんどの園で行っていることがわかる。大都市の方が長野県の都市よりも配慮している割合は高い。

今後は保育・幼稚園の状況や周辺環境と音に対する意見の有無とどのような関係があるのか考察を行う。そこから音に対する苦情を言われている園の傾向を見つける。

謝辞

アンケートにご協力いただいた教育関係者に感謝の意を表します。本研究はJSPS 科研費 16K06627 の助成を受けたものです。

参考文献

1) 西川嘉雄, 学校周辺の音環境に関する研究 その1 小中学校を対象とした音環境に関するアンケート調査, 日本建築学会技術報告集, 第21巻, 第49号, pp. 1093-1096, 2015.10

2) 内山翔太, 宮嶋和哉, 西川嘉雄: 教育施設などから発生する音に関する研究 その1 長野県の保育・幼稚園等のアンケート調査, 土木学会中部支部(2017.3), IV-12

3) 日本建築学会編, 住まい街をつくるための調査のデザイン, オーム社 (2011.3)